

第1回北広島市総合計画推進委員会 会議録

第1回 北広島市総合計画推進委員会 会議録

日 時	平成24年6月15日(金) 18:00~20:10
会 場	市役所本庁舎2階会議室
出席委員	天羽 浩委員、澤井将美委員、鈴木聡士委員、湯川恵子委員、桂 裕章委員
欠席委員	なし
市出席者	上野正三市長、 岩泉功一企画財政部長 【政策調整課】川村裕樹課長、志村 敦主査、河合真実主任 【行政推進課】川口昭広課長、大原秀紀主査、杉山正一主査 【財 政 課】中屋 直課長、宮本大介主査

*****会議録*****

1. 開会

委員の過半数が出席していることから、委員会が成立していることを確認した。

2. 委嘱書の交付

市長から各委員へ委嘱書を交付した。

3. 市長挨拶

市長があいさつをした。

4. 出席者の紹介(委員・事務局)

委員及び事務局が自己紹介を行った。

5. 委員長及び副委員長の選出

条例に基づき、委員長を選出した。

選出に当たっては、選出方法について委員から意見を伺ったところ、事務局案があれば提示してほしいとの意見があり、事務局側から、委員長を鈴木委員に、副委員長を澤井委員にお願いしたい旨提案をし、了承された。

6. 委員長挨拶

鈴木委員長があいさつをした。

7. 会議録署名委員の選出

第 1 回北広島市総合計画推進委員会 会議録

委員長の指名により、桂委員を第 1 回推進計画委員会会議録の署名委員としたい旨提案があり、了承された。

8. 議事

【議案 1】総合計画推進委員会の運営について

事務局から、資料に沿って説明。

委員から異議等がなく、了承された。

【議案 2】総合計画推進委員会の公開等について

事務局から、資料に沿って説明。

委員から異議等がなく、了承された。

【議案 3】総合計画推進委員会の調査・審議事項について

事務局から、資料に沿って説明。

A 委員 : 総合計画推進委員会設置条例第 2 条の所掌事務で調査・審議とあるが、具体的にはどういった対応、調査・審議をしていくのか。

事務局 : 総合計画は 10 年サイクルで作っており、現在の計画は 23 年度にスタートして 32 年までの期間となっている。そのため、平成 27 年度の中間年の見直しとすることでの作業は絡むが、今回の 3 年の委嘱期間の中では、改めて計画の策定という業務は発生しない。

A 委員 : 事務事業評価については、具体的に昨年度までの外部評価委員会とどう違うのか。

また、総合計画は長期総合計画審議会を経て作り上げられたものであるが、それを肯定した上で、推進計画の進行管理に対しての評価をすることになるのか。

事務局 : 昨年度まで当市では、事務事業評価について、市民の視点から評価をするという外部評価と、市が行う施策評価という 2 本柱で行っており、客観的に評価がされているということで、かなり予算削減に関わっていた部分がある。

しかし、年数を経過した中で、評価のみの結果では予算削減や、直ちに事業を廃止することが、難しくなってきた。

今回、当委員会で目的としているのは、個別の事業の評価・議論だけでなく、財政の状況や、様々な環境や状況を踏まえた中で、政策の議論をして頂いて、市としての方向性を出すことであり、政策評価の議論も、一つの題材

第1回北広島市総合計画推進委員会 会議録

としては、十分効果があるのではないかと考えている。

まずは、重点プロジェクトの中の施策について、どういう評価になっているのかを見て、足りない事業や重複している事業、力を入れるべき事業等の意見を受けながら、進行管理に繋げていくというのが一つの視点である。

また、総合計画における目指す都市像については、毎年度情勢が変わって行く中で、それを肯定否定するというのではなく、より良いものに造り上げて行くために審議すると言うことで、都市像そのものを変えることはできないが、構成する事業については組み替えが可能と考えている。

大きな視点で皆様の持っている知識を頂きたいと考えている。

既に決まっているものを追認するという事ではなく、忌憚のない意見を頂くことが、委員会のスタンスであるということをご理解いただきたい。

A委員 : 長期計画総合審議会でも基本構想も出来上がり、そこに基本計画をたて、その中には重点プロジェクトがあり、それに基づいて、推進計画を3年間の計画として作って来ているというような流れがあるが、これについて私達は入りこんで良いのか。あるいはこれらを肯定する前提で、それぞれ施策事業の検討を進めて、事務事業評価、そして進行管理、推進計画というような流れで行うという方向で良いのか。かなりコンクリートされた物を肯定して、その中で事務事業評価等を実現していく、推進計画を、掘り下げて行くということなのか。

具体的にはどのように進めていくのか。

事務局 : 今までの外部評価というのは、具体的に400~500ある事業について評価をするという側面があったが、今回の事務事業評価というのは、大きな視点で政策を語ってもらう中での題材に成り得る部分である。

A委員 : 以前、駅前周辺のまちづくり委員会の委員をしており、その時に色々な意見を集め、意見を出してというようなこともあったが、それに近いことも出てくるかもしれない、ということで受け止めて良いか。

事務局 : それは十分あり得る。今までは、計画の進行管理をしていく体制がない状態であったが、これからは総合計画を着実に推進するために、欠けている視点や、こういうところに力を入れた方がより良いのではないかと、というようなご意見を出して頂くことが、大きな仕事としてもらいたい。

委員長 : 今、理解をしている中では、去年作られた総合計画は策定が完了しておりそれが本当に進んでいるかどうかという状況を評価して、進んでいなければ頑張るし、そうでなければこういう新たな視点もあるという評価を進めて行くということが、これからの委員会の位置付けだと考える。

B委員 : 進行管理票のサンプルはあるのか。

事務局 : 進行管理票の項目について、最終の調整をしている段階である。

第1回北広島市総合計画推進委員会 会議録

- B委員** : 条例の中で、第2条第1号の委員会の所掌事務の進行管理及び評価に関する事項について、進行管理というのは進行管理票を検討することで、進行管理及び評価というのは、進行管理票の評価という意味で良いか。事業評価というのは、ここでは出てこないという理解で良いか。
- 事務局** : ここでは、総合計画の中にある推進計画の見直し・ローリング作業をすることが、策定という意味になると捉えていただきたい。
- 進行管理及び評価については、まず事務事業評価で今までの事業の結果を提示して、それについて皆様から意見を頂き、さらにそれを進行管理票でまとめ皆様に提示するので、その後、どういう方向にもって行けばいいのかと言う議論を頂きたいと考えている。
- 最後にその結果をうけて、推進計画でどこまでを目指していくかということ議論していくのが、この条例の第2条第1号の意図である。
- また、評価に関しては、事務事業を一つ一つ評価することは考えていない。市が評価した結果を基に全体を見て、審議して頂くことが評価と考えており、それを進行管理としたい。
- 委員長** : 本日この後予定されている勉強会の中で、今の部分も含めて、意見を頂ければと思う。ひとまずこれについては、了解をいただいたと言うことでよろしいか。
- 全委員** : 了承。

9. 勉強会

- (1) 総合計画（第5次）及び2012推進計画（H24-26）について
事務局から資料に基づいて説明。
- (2) 政策評価について
事務局から資料に基づいて説明。
- (3) 財政状況について
事務局から資料に基づいて説明。

10. 意見交換

- B委員** : 当市の財政状態は現在比較的良いという説明があったが、これは推進委員会で今後、子育て支援の重点プロジェクトを検討する上で、どういう関わり方になるのか。
- 事務局** : 当市の財政状況を知って頂きたいということでの勉強会の位置付けで、情報提供という趣旨でご理解頂きたい。

第1回北広島市総合計画推進委員会 会議録

- 委員長 : 大枠の確認だが、総合計画は完成している。今後、それを効果的・効率的に進めるために色々な事業があるが、それを評価しながらアクションを起こしていく時に、どう進めるかということ、この委員会で考えて行くという位置づけでよろしいか。
- 事務局 : そのとおり。
- A委員 : 色々聞いてきたが、オブラートに包まれているような感じを受け、言っていることはよく解かったが、実際、委員会として活動していく中で、具体的に何をどう進めていったら良いのかということのイメージが湧いてこない、今委員長が言ったような持っていく方で行かざるを得ないと思う。
- 全委員 : 了承

11. その他（次回開催日程についてなど）

- A委員 : 開催時間帯の希望として、午前中をお願いしたい。
- 委員長 : 事務局から日程の調整があると思うが、委員の都合があえば午前中でも構わないので、うまく調整して頂きたい。
- 事務局 : 次回の委員会については、7月下旬をめどに開催させて頂きたい。
審議内容とあわせて調整して、お伝えする。
また、今後のスケジュールについて、例えば市長とまちづくり等について意見交換をする場や、北広島各地区の現地を見るというのも、必要があれば対応していきたい。

12. 閉会

委員長から閉会のあいさつがあった。